



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2022-43

(2022. 7. 4)

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

信用金庫の定期積金残高の動向 (2021 年度末)

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

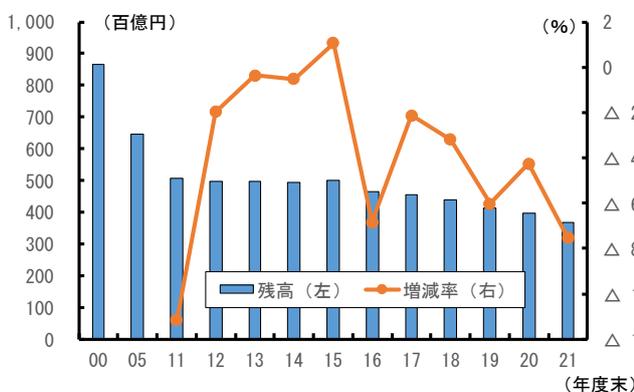
- 2021 年度末の信用金庫の定期積金残高は、前期比 7.5%、2,990 億円減少の 3 兆 6,636 億円となり、6 年連続で前期を下回った。
- 2011 年度末と比べて地区別の定期積金残高は、東京が 44.2%、北陸は 43.1%それぞれ減少するなど、全 11 地区で減少している。
- 信用金庫別の定期積金比率（預金に占める割合）を 2011 年度末と 2021 年度末で比較すると、上昇が 16 金庫に留まり、低下は 238 金庫に達した。
- 2021 年度末の信用金庫別の定期積金比率は、① 2%未満が 67 金庫、② 2%～4%未満が 144 金庫、③ 4～6%未満が 36 金庫、④ 6%以上は 7 金庫となった。

1. 全国の場合

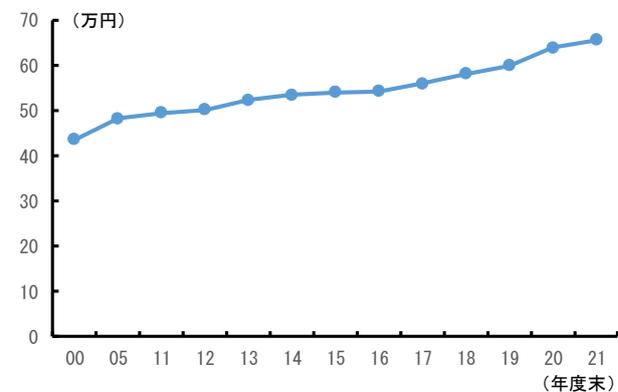
2021 年度末の信用金庫の定期積金残高は、前期比 7.5%、2,990 億円減少の 3 兆 6,636 億円となり、6 年連続で前期を下回った（図表 1）。昼間面談率の低下や顧客ニーズの変化などを背景に定期積金を効率化する信用金庫は多く、2011 年度末に 4.1%あった定期積金比率も 2021 年度末には 2.3%まで低下している。

また定期積金口数も減少が続いており、2011 年度末の 1,027 万口から 2021 年度末には 558 万口（45.6%減）となった。ただし口数の減少率が残高の減少率を上回ったため、1 口あたり残高は緩やかな増加方向にある（図表 2）。2021 年度末の 1 口あたり残高は 65.6 万円となり、2011 年度末（49.4 万円）から 32.6%増加している。

（図表 1）定期積金残高の推移



（図表 2）1 口あたり残高の推移



- （備考）
1. 本稿では、他業態との合併等を考慮しない。
 2. 本稿では、切捨ての関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
 3. 図表 1 から 5 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2021年度末の地区別の定期積金残高は、全11地区で2011年度末から減少した(図表3)。なかでも増減率では東京の44.2%減、北陸の43.1%減が、増減額では東京の5,263億円減、東海の3,413億円減が目立つ。また、2021年度末の地区別の定期積金比率は、最も高い南九州で3.4%、最も低い中国で1.9%となる。

(図表3) 地区別の定期積金残高

(単位: 百億円、%)

地区	00年度末	05年度末	11年度末	20年度末	21年度末	11年度末対比		比率	1金庫あたり残高
						増減額	増減率		
北海道	33.4	25.9	21.3	20.3	19.7	△ 1.5	△ 7.4	2.3	0.9
東北	37.9	26.8	20.2	19.6	18.5	△ 1.7	△ 8.6	3.1	0.6
東京	188.9	151.5	118.8	70.2	66.2	△ 52.6	△ 44.2	2.3	2.8
関東	156.1	104.2	83.7	64.0	59.8	△ 23.9	△ 28.5	2.0	1.2
北陸	32.2	24.9	20.8	13.6	11.8	△ 8.9	△ 43.1	2.9	0.7
東海	189.1	149.2	118.8	96.3	84.6	△ 34.1	△ 28.7	2.5	2.4
近畿	142.0	99.9	75.7	71.3	66.5	△ 9.1	△ 12.1	2.0	2.2
中国	39.9	30.3	19.4	14.2	13.2	△ 6.2	△ 32.1	1.9	0.6
四国	10.6	7.8	8.4	7.2	6.8	△ 1.6	△ 19.3	2.2	0.6
九州北部	13.9	10.3	8.0	7.4	7.3	△ 0.7	△ 9.5	2.7	0.5
南九州	19.4	15.5	11.9	11.0	10.8	△ 1.0	△ 8.7	3.4	0.8
全国	864.6	647.3	508.0	396.2	366.3	△ 141.7	△ 27.8	2.3	1.4

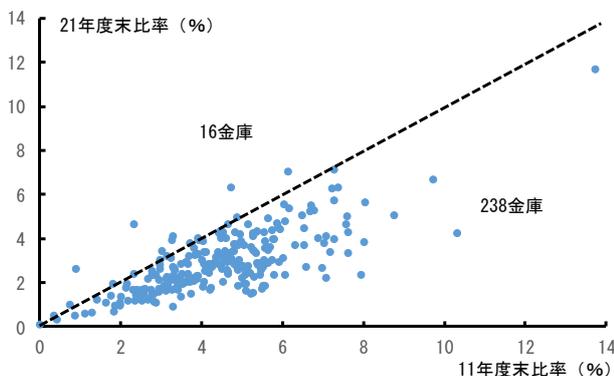
(備考) 沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

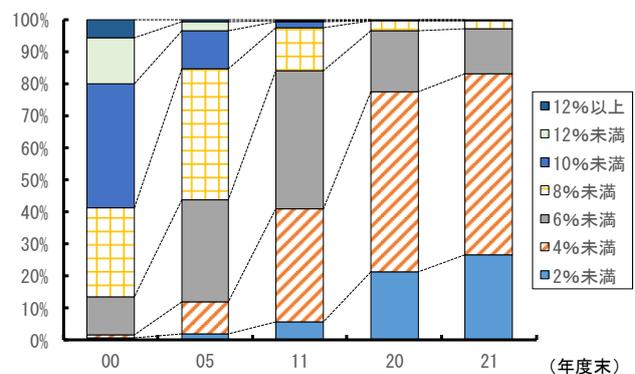
信用金庫別の定期積金比率を2011年度末と2021年度末で比較すると、①比率上昇が16金庫に対し、②比率低下は238金庫に達した(図表4)。なお同期間に残高が増加した信用金庫は60金庫あり、うち50%以上増加は10金庫となった。

2021年度末の信用金庫別の定期積金比率は、①2%未満が67金庫(構成比26.3%)、②2%~4%未満が144金庫(同56.6%)、③4~6%未満が36金庫(同14.1%)、④6%以上は7金庫(同2.7%)となった(図表5)。2011年度末の構成比と比較すると、2%未満が5.5%(15金庫)から26.3%に、6%以上は15.8%(43金庫)から2.7%に、それぞれ変化した。

(図表4) 定期積金比率の変化
(11・21年度末)



(図表5) 信用金庫別の定期積金比率



以上

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。